

北河内地域おこし協力隊通信

Vol. 2

2021 年 12 月作成

担当: 鈴木 一史

(北河内出張所)

TEL: 0827-47-3001

『北河内住民アンケート』

2021年8月、9月、10月と三回に亘り、北河内の一大プロジェクト、アンケート実施協議会が開催されました。北河内の良い所・現状の問題点を把握し、安心安全で住み良い活気ある北河内にするためには、まず、北河内の皆さんの考えを知る必要があります、北河内未来塾主導で、アンケートの実施に向けた協議会を立ち上げました。



第一回は北河内地区の「魅力」や「課題」をまとめ、その内容を基に北河内未来塾で何度も話し合いを重ね、北河内で実施するアンケート案を作成しました。第二回はそのアンケート案について、3つのグループに分かれ、話し合いを行いました。第三回はアンケートの最終確認から始まり、今後のスケジュールの確認、最後の質疑応答では活発な意見交換も行われ、協議会は終了しました。

11月の半ばにアンケートを配布し、今年度中にアンケートを取りまとめ、来年度に報告する予定です。どのような意見が上がるのか、今から楽しみにしています。

『行波の神舞』

10月9日(土)、北河内行波地区の神社で行われた秋祭りでは、行波の神舞を見学しました。

岩国行波の『神舞』は、1785年頃の大飢饉などを契機に始まったとされており、寛政3年(1791年)から6年毎に行われている伝統行事です。神事と神楽



から構成されており、その一部が毎年10月に地元の神社に奉納されています。



暗闇の中、屋外には松明がたかれ、辺りは静寂に包まれ厳かな雰囲気の中、執り行われました。あたかも息づかいや胸の鼓動が聞こえそうなほど、皆さんの真剣に打ち込む姿勢がひしひしと伝わってきました。そこには行波に住んでいる人の誇りを感じることができました。

行波では、神舞や獅子舞といった伝統行事を行っています。

興味のある方は、是非一度自分の目で見て、感じてみてください。

『二鹿のアサギマダラ』

10月の暖かく穏やかな日に、二鹿野外センター近くにアサギマダラという綺麗な蝶がいるという噂を聞きつけ、どんな素敵な蝶がいるのか気になる、足を運びました。

皆さん、「アサギマダラ」はご存じですか？アサギマダラは蝶の一種で、日本列島を南北に縦断し、遠く台湾まで飛ぶものもあり、別名『旅する蝶』とも言われています。旅する蝶というと、自由で、ロマンチックな感じがしますね。

アサギマダラはフジバカマという花を好み、そこに集まるとのことです。二鹿野外センター近くには、フジバカマの群生地があります。ここは今でこそ華やかな光景が広がり、見物客を魅了していますが、ここまでくるのに、



大変な手間暇をかけられたそうです。まずは何十人もの人手で雑草の伐採から始まり、一生懸命フジバカマを育て、何年もかけて群生地を作り上げられたという話をお伺いしました。皆さんの熱い想いがひしひしと伝わってきました。

アサギマダラが羽を広げて蜜を吸っている光景は、優雅で美しく気品に溢れています。フジバカマにたくさんのアサギマダラが群がっている姿は愛らしく、この光景を眺めていると、時間が過ぎるのも忘れてしまいそうでした。

今年はシーズンが終了し、二鹿ではアサギマダラを見ることはできませんが、また来年の10月に、たくさんのアサギマダラが旅してくることを楽しみにしています。

『梅津の滝周辺を散策』

10月の下旬、秋も深まり初冬を思わせるような肌寒い中、二鹿の梅津の滝周辺を散策しました。

辺りはひっそりと静まり返り、空気は凜と張りつめ、水の流れる音だけが響き渡っていました。

様々な木々や川に囲まれ、歩いているだけで体はリフレッシュし、活力がみなぎり、何より大自然の中を散歩していると気持ち良さを覚えました。



梅津の滝を後にして辺りを散策していると、かつてはタングステンを採掘していた喜和田鉱山跡地の面影を見ることができました。かつての二鹿は喜和田鉱山により繁栄し、もっと賑わいがあったのではと感じました。



春は桜、夏は新緑、秋は紅葉、冬は雪化粧、ここでは四季折々の景色が堪能できるほか、様々な散策コースもあります。

是非、一度足を運び、お気に入りの景色を発見してみてください。